

日本中にある天満宮 12,000 社の最初の天神さま

防府天満宮は、901 年、京都の宮中から九州に無実の罪で左遷された貴族であり役人であった菅原道真公を祀るために、904 年に創建されました。道真公は左遷の旅の途中で防府に滞在し、天皇からの罪がはれた知らせを願いましたが叶うことはありませんでした。903 年、道真公は九州で亡くなりになりましたが、その日、防府では海に光の柱が立ち上がり、神社の裏手の山の頂に神秘的な雲がたなびく奇跡が起こりました。これらの奇跡は、道真公の魂が本州で最後に滞在し、無実の知らせを待ちわびた場所に戻ったことを意味すると解釈されました。

防府で目撃された奇跡によって、人々に害が及んだわけではありません。しかし、防府と違い京都では、もっと驚くべき出来事が続きました。宮中に落雷があった上に、道真公の左遷の糸引きをした貴族までも雷に打たれて亡くなりました。道真公は、お祀りする必要がある強力な神になったのは明らかでした。

道真公は雷を司る「天の神」である天満大自在天神を短くした天神になった神として、雷を落としたのでした。909 年に道真公の宿敵、藤原時平が亡くなり、930 年に醍醐天皇が崩御された後、天神の怒りを鎮めお祀りすることは、国家を挙げての重大事であると判断されました。

現在、日本には約 12,000 社の天神の神社（天満宮）があります。日本で最初の防府天満宮は、京都の北野天満宮と九州の太宰府天満宮と並び称せられています。その他多数の点で、防府天満宮は珍しいところがあり、四柱が御祭神として祀られていて、その内三柱は神話にも登場する道真公の祖先です。本殿、幣殿、拝殿の 3 つの部分が、ひとつの建物としてまとまっています。

防府天満宮は 1952 年に焼失しましたが、昔の設計に従い、10 年かけて再建されました。神として祀られ、時が経つと、天神は勉学の神様として崇拝されるようになりました。これはおそらく、道真公がその生涯において学者であり、詩人でもあったからでしょう。そういうわけで、天神の神社には、学問における成功を祈祷する多くの人たちが訪れます。

防府天満宮の概要

- 防府天満宮は、菅原道真公を祀る日本中の天満宮 12,000 社の中で 904 年に創建された最初の天神です。
- 道真公が九州に左遷される旅の途中に防府に立ち寄った時 57 歳だったので、神社につながる石の階段は 57 段になりました。
- 神社の敷地内の一番古い木は、樹齢 800 年のクスノキです。
- 神社の祭事で使用される御神輿（御網代輿）、サイと同じくらいの重量 1.5 トン（台車含）もあります！
- 神社の敷地への入口となる鳥居は、山口県全域で最古の石の鳥居です。